

## ミニ撮影会コンテスト（野田金属工業）

### 江村作品が最優秀賞に！

去る3月17日行われた東大阪市にある野田金属工業(株)でのミニ撮影会作品コンテストは、5月19日（第3木曜日）第2例会で開催されました。

出品者は9名、OMC撮影会は撮り直し撮り足しは自由です。今回も後日行かれた方がいたようで、それだけ作品の厚みが増し、結果的に作品の内容が皆それぞれ特徴のある纏め方をされていて楽しく拝見できました。

会場に出席している13名の方が、1位3点、2位2点、3位1点という無記名投票で順位を決めた結果次の通りです。

■最優秀賞	江村一郎	「鍋から」	19票	8分03秒
■優秀賞	前田茂夫	「モノづくりに生きて」	17票	14分50秒
■秀作賞	関 剛	「画竜点睛」	13票	5分05秒
■努力賞	高瀬辰雄	「魂のモノづくり」	12票	7分40秒
(以下同じで 順不同)	合原一夫	「乗り越えて今」	9票	9分50秒
	有村 博	「ステンレス加工」		9分43秒
	進藤信男	「SEEKERS」		9分21秒
	柴辻英一	「モノづくり見聞記」		8分05秒
	稲田 拡	「格好いいゲンバ男子」		8分10秒

（総評・合原会長）

上位4作品は僅差の得点で、いずれもく出来た作品でフェスティバルに出せる力量を持っています。創業者の野田氏が、満州から苦勞して帰られたいきさつを自費出版された本の内容と、氏の講演をうまく取り入れて現在の工場内での記録以外の話題の内容をふくらせて構成された方が多く、単調さを救い、奥行きのある作品に仕上がっていました。前田作品は、ドキュメンタリー的にまとめた大作です。江村作品も引揚げ時の命を救ったという「鍋」を中心にもってこられたのが成功したと思います。なお出品作はBD1枚にして野田氏へ贈呈されました。

## 6月例会のお知らせ

■今月は第2例会はありません。通常例会は第4土曜日25日午後6時より大阪市立難波学習センターにて開催します。ぜひお越しください。

お天気に恵まれ 楽しい撮影会でした



去る5月14～15日、OMC恒例の一泊撮影会が行われ、13名の会員さんが参加されました。京都八条口に午前10時集合、京都八条口はあいにく工事中で、送迎バスの停まっている場所が事前案内より変わっていて全員がバスに乗り終えるのに少し時間がかかりました。マイクロバスに定員一杯の乗客を乗せていざ出発。途中京都の奥地愛宕山、北山杉林など山道をぬうように走り、峠を超えて目的地美山かやぶきの里へ着きました。お天気もよし、昼食後さっそく撮影にとりかかる面々。近くには美術館と資料館があり、自由に撮影することができました。戦前戦後農家で使われていた農機具や道具が展示してあり、懐かしい想いで撮影しました。今の機械化農業、除草剤など使う農業と違って、ムカシの農業はキツかったなあ后感無量でした。一日目は資料館近くの農地、かやぶき屋根、炭焼き小屋、などを撮影後、マイクロバスで宿泊地のロッジに到着。入浴したりひと休息の後、宴会開始。皆元気で参加できたことに感謝、ビデオ談議に華を咲かせて楽しいひとときを過ごしました。

二日目、マイクロバスにてお田植神事があるという、かやぶきの家がたくさんある美山かやぶきの里へ出発。田植はこの辺りでは、ほとんど終わっていましたが、早乙女さんが手植えする田んぼだけは、まだ水を張ったままの状態でした。早くから陣取っているカメラマンに混じって、私達もいい場所に三脚を据え、八幡神社から歩いてくる一行を待ちました。

今どき手で田植する風景など見られませんが、こうした神事的时候は別格です。九州では久留米がすりの着物を着て田植する女性が多かったのですが、ここでも、それらしい着物姿で、慣れぬ手付きで田植する早乙女姿に郷愁を感じつつも、撮影しつづけました。

この辺りは確かに茅葺きの家が多く絵になる風景がありました。茅葺きの家も維持管理していくのは大変だろうなあ、と思いつつ撮り歩きましたが、逆に茅葺きの家を利用しようということで、民宿やお店、陶芸の家、あい染めの家など観光に力を入れていらっしゃるところもありました。

さて、私たちのビデオ作品の出来具合、如何になりましょうか。特筆すべきようなヤマ場はありませんでしたので、茅葺の家を中心としたスケッチ風になるのか、この町の歴史的考察を試みるのか、ムカシと今との比較で行くのか、いろんな纏め方が考えられるが、さあ、結果が楽しみです。

#### ■撮影会参加者

稲田、江村、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、西村(亀)、野田、前田、宮崎、山本の13氏が参加。

#### ■撮影会作品コンテスト

7月21日(木)13時、第2例会日

◎お世話頂きました高瀬世話役に改めて感謝いたします。拍手！

## 映像パソコン取り込み中

テープ持参者が減ったので、作品はパソコンに取り込み、書記役の方にはUSBメモリで再生してもらう様、いろいろ試行錯誤していますが、軌道に乗る迄まだ時間がかかりそう。然し、時代も変わりましたな。

---

## 5月通常例会レポート

気温もぐっと上昇し熱いほどの季節になりました。今日、外は小雨模様の日、会員諸氏の集まりが気になりましたが、20名の方と12本が出品されました。残念ながら今回も河合作品が再生できず。要調査。

司会は合原氏、書記、西村光雄氏、映写係は岡本氏、テープ録画、河合氏、パソコン録画、江村氏、受付兼照明係、森下、華岡両氏、掲示係、紙本氏の担当で行いました。

■出席者：赤澤、有村、稲田、江村、岡本、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、西村(光)、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本の20氏と作品は11本。

■上映作品（講評は西村光雄世話役）

### 1. 村上水軍を訪ねて 紙本勝 15分10秒

水軍とは当初は海賊行為を主とした小さな集団でしたが、その内海上での戦闘集団となり大名や有力者に雇われて海戦を行うようになりました。村上水軍は中世に瀬戸内海で活躍した水軍として有名で能島、因島、来島水軍の御三家からなり、作者はしまなみ街道をバスや船を乗り継いでその遺跡を訪ねられました。時間を掛けられた丹念な撮影に資料映像を上手に重ねられ、よく調べられたナレーションで当時を髣髴とさせる作品に仕上がっていました。瀬戸内海は外洋の潮の満ち干の差によって潮流が発生します。村上水軍が活躍した芸予諸島の小島の中の狭い水道でのとても早い潮流の映像もあり、当時の水軍の操船技術の高さもよくわかり説得力のある構成になっていました。

### 2. マッキンリーを飛ぶ 華岡 汪 7分52秒

アラスカ州に有る北米最高峰のマッキンリー山を遊覧飛行され、作品にされました。マッキンリーの標高は6193mで、アルプスの最高峰モンブラン4810mとヒマラヤ山脈の世界最高峰エベレスト8845mの中間に位置する高さです。また日本の登山家、植村直己氏が冬季初登頂をされた山として、わが国でも名前が良く知られています。遊覧飛行はアラスカのフェアバンクスから2時間掛けて壮大な山肌や巨大な氷河を見るツアーです。お天気も上々で雪の山々はまさに「白き神々の座」と言うに相応しい眺めでした。氷河を俯瞰で見た事が無かったのですが、高い位置から見るとその荒々しい流れ方が良く分かりました。適時に字幕も入れられて分かり易く迫力の有る作品になっていました。

### 3. 上町台地を歩く 有村 博 9分54秒

上町台地は古くから大阪湾に突き出た高台で、南は住吉大社付近から大阪城までの地域の呼び名だそうです。作者は天王寺から大阪城までの間を、3回に亘って撮影されました。台地ですから高低差があり撮影機材を持っての上り下りが大変だったのでしょうか。この台地には古来の文化を表す社寺が沢山あり、大阪落語の発祥の地もあり大阪の文化の一翼を担った場所に思えました。大阪にとっての大きな出来事は大阪城の攻防ですが、この戦で活躍した真田幸村由来の銅像や石碑も残されています。NHKの大河ドラマ「真田丸」で人気が上がって訪れる人も増えているそうです。時間を掛けて撮影されただけあって、画角の設定や安定したカメラワークの良さが際立っていました。説明も分かり易く大阪の歴史の一端をよく表現された作品でした。

### 4. 波瀬の紅葉 赤澤與三郎 3分54秒

波瀬は奈良県の吉野村に隣接し回りを1000m級の山々に囲まれた、三重県の飯高村にある山深い里です。作者は紅葉の時期にバス旅行でこの地を訪ねられました。高見山から流れ出る櫛田川沿いに紅葉がある人知れぬ名所のようなのです。紅葉の種類には詳しくありませんが、ここの紅葉はオレンジ系の色調ですね。溪流と紅葉は良く似合います。バス旅行ですから時間的な余裕が少なかったせいでしょうが、紅葉のアップカットが無いのが惜しまれます。アップがあれば、更に良い作品に仕上がったように思いました。ススキのカットも取り入れて秋らしい作品に仕上げられ、使われたBGMも雰囲気良く絵を引き立たせていました。

### 5. 最後の住吉公園駅 江村一郎 7分50秒

阪堺電軌の住吉公園駅は大正2年の創業で今年廃止になったそうです。作者は「よさこい」で知られる様に、斬新な構図のカットを音楽で切り替えて行く、どちらかと言うと絵と音でイメージを表現される作風の方だと思います。この作品でも作者らしい切り口のカットも有りますし、イメージを重視した編集もされている様に感じました。ただ、こう言う題材は説明抜きでは出来ないのではテロップを入れられていますが、この線が廃線になる理由の説明が無いのは何故だろう

と言う感じがしました。特に正月の参詣時の賑わいのカットが挿入されているので、廃線の理由の説明をされた方が良いのではないのでしょうか。全体としては滅び行く物への哀愁の気持ちが良く表現されていますし、作者らしい雰囲気のある作品だったと思います。

## 6. 近江商人の郷 森口吉正 8分10秒

近江商人は日本三大商人（他に大阪商人、伊勢商人）の1つで、江戸時代後期から昭和初期に掛けて手広く商売を進め、中にはご朱印船を持って海外に進出した時代も有ったようです。三大商人がすべて近畿地方の出身で近畿は伝統的に商才に長けた人が多かったのでしょうか。作者は近江商人の発祥地の1つである五箇荘を取材されました。今に残る近江商人の像は、天秤棒に荷物をくくりつけて地方に行商に行く初期の姿が表現されています。作品は五箇荘で近江商人が多く出た理由、その由来から近江商人屋敷のカットを通して近江商人の行動指針、三方よし「売り手よし、買い手よし、世間よし」を紹介され、とても良いナレーションを作られました。映像も多彩で手持ち撮影の部分も有りましたが安定しており、バランスの取れた良い作品でした。

## 7. 桜 雨 前田茂夫 4分55秒

桜を撮る時はピーカンの青空をバックに花の美しさを際立たせるとか、お城や古刹をバックにするとかが定番ですが、作者は雨の日を選んで撮影をされました。雨に濡れそぼって散り行く桜、水溜りに花筏のように散りしだいた桜、そこに容赦なく降り注ぐ雨、カットの撮り方が抜群です。ともすれば単調になりがちな材料ですが、作者はアングルを変え、ロング、ミディアム、アップと切り替えて飽きさせない構成にされています。終わりに近い場面ではドリーを使われて終わる伏線にされました。音楽も途中で切って雨の音だけで映像を見せるとか、いろんな演出を使われて逝く春を惜しむ風情を感じさせる好作品に仕上げられました。

## 8. 媽祖生誕祭 山本正夢 13分00秒

中国や台湾には三大宗教（道教、仏教、儒教）があり媽祖（まそ）神は道教の女神でもっとも地位の高い神ともされ中国南部や台湾で信仰が盛んなそうです。媽祖生誕祭は台湾の各地で行われますが、今回は高雄市の4年に一回行われる生誕祭を取材されました。道教は中国古来の土着宗教なので仏教の方が新しいのですが、随所に仏教的な祭りを思わせる共通な部分もありました。やはり中国の祭りは爆竹です、量が半端でないのに驚かされます。終わりにはクレーンに爆竹を吊るして下から火をつける昇り竜ならぬ昇り爆竹？が行われていました。お祭りは6日間に亘るそうですが、精力的に多くのカットを撮影され、祭りの全貌がわかる編集がされていました。珍しいお祭りを堪能しました。

## 9. 桜散りて・・・ 高瀬辰雄 8分30秒

京都の隠れた桜の名所立本寺の桜から始まります、その後に併設の仁和児童公園で遊ぶ子供たちのカットが入って散りゆく桜に移ります。席上タイトルについて意見がありました。私もタイトルを見てこの散る桜で終わると思っていましたが、この作品の主題はこの公園が取り壊される事にあったようです。作者は「桜散りて・・・」の・・・の部分に桜だけではない思いを籠められたのかと推察しますが、やはりタイトルは内容がよく分かる様にされた方が良いのではないのでしょうか。初めに出て来る仁和児童公園の部分は後段への伏線なのでしょうが、伏線としての要素をもっと強められれば前後の話の繋がりがより良くなると思います。また、放送映像を使用しておられますが、あの内容であればご自分の言葉で語られれば十分と感じました。全体としては桜のカットも秀逸でしたし、社会問題を扱う意義も素晴らしいので更にブラッシュアップされれば、より良い作品になると感じました。

## 10. 来園者の増加を目指す天王寺動物園 稲田 拓 6分31秒

最近動物園や遊園地などの観光施設は一部の大規模施設を除いて来園者が減っているようです。動物園駅もご無沙汰していますが、駅から動物園までの沿道は来園者を呼び込もうと言ういろんな工夫がされていますね。本作品で一番良かったのは白熊？の子供の愛らしさでしょう、親との対話も入れられて微笑ましい編集がされていて良かったと思いました。席上タイトルについてのご意見があり、本編中に動物園側が観客動員のために行っている事（たとえば昔は檻の中、今はオープンサファリにしたとか）を盛り込まれたらよりよくなると思うご意見でした。細かい点ですがナレーションと熊の親子の対話は右チャンネルに、園長の話は左チャンネルに入っていました。これは左右のチャンネルに振り分けて入れられた方が良いと思います。

## 11. 花の吉野山 宮崎紀代子 9分35秒

吉野山の下千本が満開の時期に訪問されました。桜は集団の美と言われていますが、山々の間にこれだけの桜があるとロングの絵がとても映えますね。金峯山寺等の古刹や上の千本付近の霧に霞む杉林とか、変化に富んだカットを多数撮られているのが作品に生きています。話し言葉での柔らかいナレーションと語り口も申し分ありませんでした。次は上

の千本が満開の時期に撮影されて、また違う桜の美しさを見せていただきたいと思います。

## 5月第2例会レポート

5月第2例会は第3木曜19日13時より開催。前半はミニ撮影会作品コンテストで9本が出品、いずれ劣らぬ習作でしたが、江村氏の「鍋から」が僅差でトップでした。コンテストの進行役は関氏、書記、合原氏、後半の一般作品司会は柴辻氏、書記、高瀬氏の担当で進行しました。

### ■出席者：

有村、井上、稲田、植村、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、野田、前田、宮崎、山本の13氏と作品4本でした。

### ■上映作品（講評は高瀬世話役）

### 1. 霧雨の北竿島 山本正夢 7分00秒

いつも珍しい海外の映像を見せていただく山本さん。「一般の人が観光で行くようなところは興味がない」といわれ、今回の作品もおそらく日本の観光客は行かないだろうと思われる台湾の北竿島が舞台。北竿島は中国と目と鼻の先にある馬祖列島の人口1800人の島。タイトルから始まる雲間に浮かび霧雨に煙る島のシーンが秀逸。まるで水墨画を見るような趣である。続いて石造りの家や寺院、港など島の様子を紹介。台湾で一番中国に近い島で今も最前線の軍事基地があり、海沿いに置かれた戦車などを撮影されている。霧雨に打たれる砲筒など、なぜかもの悲しさが漂う。観光の後は海鮮料理の酒宴、さらに二次会と上機嫌の人々をカメラに収め、皆さんよい気分ですと締めくくられている。ただ、食事や二次会を共にされたのがどういう人たちなのか気になりました。

### 2. 創造に挑戦 野田邦雄 7分17秒

3月にミニ撮影会が行なわれた「野田金属工業」を経営者の野田さんが撮影、編集された作品。社員数人が新しいオブジェを囲んで真剣に語り合っているシーンから始まる。次の展開に興味を抱かせる導入シーンである。続いて、ステンレスの素材を精緻な曲げの技術で仕上げられていく様子を克明に描かれている。撮影会ではさまざまな完成したモニュメントなどを見せてもらったが、それに至るまでの詳しい加工工程を種明かししていただいたような映像である。精緻な作業が何度も繰り返されるので、映像的にはやや類似カットに見えてしまう部分があるが、作業に取り組まれている社員の方々の表情が生き生きしているのがいい。コンテストには出品されなかったが、特別賞に値する作品という声があった。

### 3. 背割の桜 高瀬辰雄 7分00秒

背割堤は京都府八幡市にあり、桂川と宇治川、木津川の3本の川が合流している場所で京阪電車、八幡市駅から数分の距離。およそ1.5キロの堤防の両脇に桜が植えられ、満開のこの時期、大勢の花見客で賑わう。この背割の桜を今年4月の初めに撮影した拙作ですが、満開の時だけでなく、桜が散る所も撮影しようと、数日後、風の強い日に朝早く挑戦したものの桜は一向に散らず、思ったような映像は撮れませんでした。BGMに歌手ふくい舞の「いくたびの桜」を前半に、途中から桜見物の人が叩く太鼓を使ったが、太鼓の転換にやや違和感があり、時間をもう少し短くし、歌一曲だけで通した方がいいのではという指摘をいただいた。

### 4. レクイエムⅡ（リバイバル作品） 関 剛 6分55秒

ドイツ、ベルリンのカイザー・ヴィルヘルム記念教会をテーマにされた作品。同教会は1895年にドイツ皇帝ヴィルヘルムⅠ世を追悼して建てられたが、1943年のベルリン大空襲で破壊され、その後、ベルリン空襲の悲惨さを伝える記念碑として崩れたままの姿で保存されている。しかし、作品はそうした説明的な紹介はなく、第二次大戦のメモリアルモニュメントと最初にあるだけで、レクイエム、死を悼むというタイトルが示す通り、戦争の痛ましさを象徴するものとして関さんならではの映像表現で描かれている。教会の外観や内部のモザイク画などのカットに加え、教会が戦火に焼かれる様子をさまざまな映像技術を駆使し表現、心に迫る作品となっている。4対3の画面の両サイドに灰色の帯を入れられているが、色を変え、たとえば黒色にすれば、また違った印象の映像になるのでは…という意見がありました。